



22 天正 18 年 (1590 年) 頃の上野国徳川家臣配置図

徳川家康が関東に入国した天正 18 年 (1590 年) の上野国周辺には、常陸国の佐竹氏や下野国の宇都宮氏などの大名が家康に無言の圧力をかけていました。また、越後国や信濃国にも家康と対立する大名が勢力を振るっていました。さらに上野国内にも北条氏の遺臣たちが健在でした。そのような反徳川勢力を抑えるため、家康は西上野の拠点である箕輪い い なおまさに井伊直政、東上野の拠点である館林さかきぼらやすまさに榊原康政、両者の接点に位置する厩橋まやはしに平岩親吉とひらいわちかよしといった重臣を入部させました。

『群馬県史 通史編 4 近世 I』P27

図 1 (徳川家康関東入国時における上級家臣の配置) を基に作成